

## 第14回協働実践研究会 報告

2018年12月1日(土)、麗澤大学東京研究センターにて、第14回協働実践研究会が開催されました。

プログラムは、「ピア・ラーニング入門講座」にはじまり、「協働実践の今」、「協働実践を考える」の3本立てでした。参加者は67名で大学教員、日本語学校の教員、大学院生などでした。

日本語教育の分野で「ピア・ラーニング」の研究が行われてから約20年。過去を振り返り、現在を捉え直し、今後のピア・ラーニングについて考える機会と致しました。

多くの教室活動の紹介や研究動向の紹介を通じて、協働学習について考える時間となりました。

内容は以下のとおりです。



### ◆ピア・ラーニング入門講座 (13:00~15:00) 講師：池田 玲子 (鳥取大学)



今回の「入門講座」は、ピア・ラーニングを知りたい、これから取り組んでみたいという文字通り「入門」の方に向けてピア・ラーニングの全体を知ってもらいたかったのと同時に、日本語教師養成機関や大学で日本語教師養成科目を担当されている先生方にも参考していただきたいという期待を込めたものでした。

当日の内容はピア・ラーニングの提案の背景、理論の解説、私自身の現在の授業実践の紹介を行いました。とくに実践紹介では、参加者の皆様により深く理解していただくために、会場での学習者体験もしてもらいました。

会場の参加者の方々の中には、すでに教育経験の長い先生方やこれから取り組んでみようという院生や新米の教師の方々の姿が見られました。まさに多様な背景をもつ日本語関係者によるピア・ラーニング活動がここで実現できたことは、開催者側として貴重な機会となりました。本講座にご協力くださった皆様に心よりお礼を申し上げます。

(文責：池田玲子)

## ◆協働実践の今 1：ポスター発表（15:10～16:20）

◇江原美恵子(早稲田大学)・伊藤奈津美(早稲田大学)・小笠恵美子(昭和音楽大学)・鈴木綾乃(横浜市立大学)・中尾桂子(大妻女子大学短期大学部)

「ことばの力を育む教師の責任—国語教師『大村はま』に学ぶ実践カルテ工房の試み—」

◇龔雪(麗澤大学大学院生)

「ピア・レスポンスにおける母語と目標言語によるインターアクション—コメントの選択を中心に—」

◇山田真知子(関西学院大学)

「日本の就職活動に必要な自己分析—留学生とラーニング・アシスタントの協働的な学びの効果—」

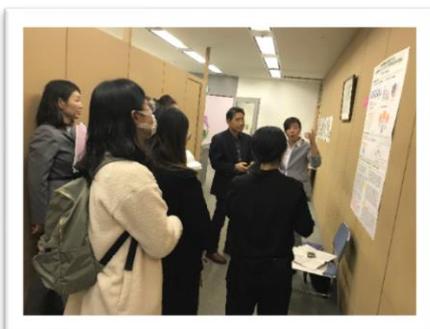
◇多田苗美(麗澤大学大学院生)

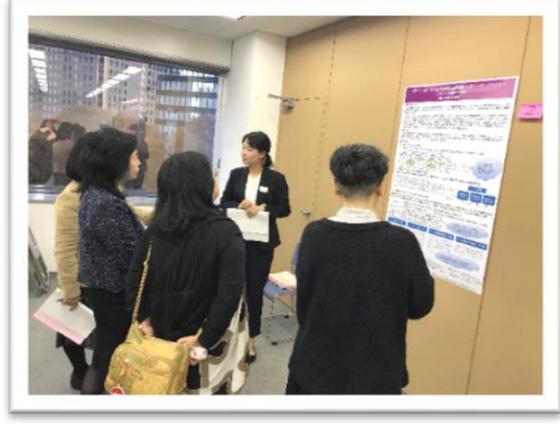
「討論型授業における教師の役割とは—ケース学習を例として—」

◇坂井菜緒(武蔵野大学)・中川純子(武蔵野大学)・長松谷有紀(東海大学)・服部真子(武蔵野大学)

「多文化混合クラスの学生をつなぐ協働のありかた—大学初年次授業担当教師の振り返りから—」

今回は「協働で何をつないだか」をテーマとして発表募集をし、5件のポスター発表が行われました。学生同士の協働、教師同士の協働、学生と教師の協働、学生とラーニング・アシスタントの協働についての発表が行われ、協働がつなぐものの広がりを実感いたしました。ポスター発表の内容をきっかけに、発表者と参加者、そして参加者同士でも活発な議論が交わされ、これがさらなる協働実践、協働実践研究へとつながっていくことと思います。





### ◆協働実践の今 2：研究会/科研等活動報告（16:25～16:50）

発題者：金 孝卿（早稲田大学）

科研費\*及び招聘による 2018 年度の活動報告として、次の内容の報告を行いました。まず、国内活動として、講演、パネルディスカッション、各種教師研修、論文情報などを報告しました。次に、海外活動として、インドネシア（バンドンセミナー）を始め、タイ、台湾、フランス（レンヌ）、ロシアでの教師研修、セミナーおよび研究発表の概要を報告しました。最後に、研究会情報として、現在、会員数が現在 305 名となっていることと、今後も各地域で協働実践に関する取り組みや活動などを共有しながら、これまでの連携を確かなものにしていくと共に、ネットワークを広げていきたい旨を伝えました。

\*各種活動は、下記の科学研究費の助成を受けて行ったものです。

- ・基盤（B）「国人労働者の定着と協働を目指す受け入れ環境の構築」課題番号：17H02354（代表者：近藤彩）
- ・基盤（C）「外国人社員の異業種協働型ビジネスコミュニケーション研修プログラムの開発研究」課題番号：17K02851（代表者：金孝卿）
- ・基盤（B）「多文化共生社会におけるホストパーソン・支援者の接触支援スキルと意識の変容」課題番号：16H03435（代表者：義永美央子）（文責：金孝卿）



## ◆これからの協働実践を考える（16:55～17:35）

発題者：館岡 洋子（早稲田大学）

「これからの協働実践」を考える」というタイトルのもとに、まず、現在の各自が言う「協働」の中身は互いに同じものを指しているのか、また、「グループ活動」をすれば、全て「協働」と言えるのかという確認から話はスタートしました。

次に、「学習観のパラダイム転換」の中に「協働」を位置づけ、各自がどの立場に立って協働を主張しているのか、という問いかけを行いました。そのうえで、発題者は、「これからの協働実践」について、すべての学びは「協働」であり、これからの社会を生きるために異なった他者とどう協働できるかということが重要であるということをも主張しました。（文責：館岡洋子）



## ◆懇親会

研究会終了後、18:00 から 20 名の参加者による懇親会が行われました。発表者の方をはじめ、協働実践研究会の会員の方々、非会員の方々にも多くお越しいただき、研究会に引き続き、熱い議論を交わしたり、情報交換を行ったりと、有意義な交流の場となりました。

今回の研究会では、「ピア・ラーニング入門講座」でピア・ラーニングの基本的な考え方をまず確認し、5 件のポスター発表と研究会・科研活動報告によって今どのような実践が行われているかを共有したうえで、参加者が共に今後の協働実践について考えることができました。協働実践の過去、現在、未来をつなぐ、大変貴重な機会になったと感じています。研究会・懇親会での出会いが、今後の新たな協働へと発展することを期待します。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。（報告者：近藤彩、小浦方理恵）